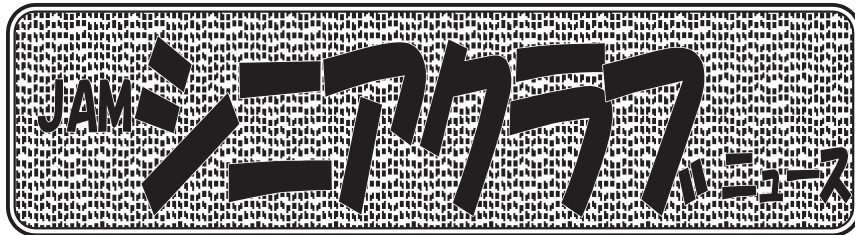


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第147号

発行日 2019年11月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本屋内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

第1回シニア連携強化懇談会を開催

新たに組織対策委員会の設置を要請

現役との連携で組織拡大課題の解決へ

10月21日、JAMシニアクラブとJAM現役との「第1回連携強化懇談会」がJAM本部の12階会議室で開催された。連携強化懇談会には現役から安河内会長、中井書記長、川野副書記長、椎木副書記長、栄組織グループ長、シニアから大山、木村、那珂、豊泉、大野、平木、早川、末友さんが出席。中心議題の組織拡大と組織対策委員会の立ち上げ、政策制度課題の年金勉強会の具体化について意見交換した。

連携強化懇談会は栄——め会議の冒頭に両組織の代表が挨拶した。直近でのホットな春闘

議論におけるJCMの動向について「景気は減速ながらも緩やかな回復傾向と政府は発表しているが、自動車では需要が大幅に落ちて余剰人員を抱え、これが電機にも波及、基幹労連もまた新しい受注がなく同様に厳しい」と主力産別の業況動向を報告し「しかし消費税の増税、物価上昇や格差問題もありJCM

として昨年要求を下回る理由はなく、昨年と同程度の取り組みをすべきとなった。JAMは昨年同様の闘いをしていきたい」と語った。シニア大山会長は退職者連合の人事に絡み「大山会長が常任幹事に、早川事務局次長が退職者連合副事務局長として兼任することになった」ことを報告した。そのうえで、今年

のシニア活動方針の具体化についてふれ「現役の皆さんと一緒に組織対策委員会と年金勉強会の二つを立ちあげ、現役と高齢者が一つになって活動し3年後の参院選に向けた取り組みをしていきたい」との考えを示した。その後現役の定期大会とシニア定期総会のポイントを報告した。現役からは参院選の結果を受けて「組織力の低下は単組が悪いような印象を受けた人が多く、本部に対して厳しい指摘を受けていること、個別地方JAMへの対応の必要性など課題が浮き彫りになった。組織の立て直しを図ってほしい」との報告がされた。シニアからは総会で出された①組織内地方議員拡大への努力②単組OB会への組織づくりへの現役からのサポートの強化③60歳以降雇用延長者への対応④シニア共済の認知度アップへの現役の協力などについて報告と要請をした。

主張



今回の選挙戦を通して感じたことは、組織内の選挙活動において組合員が無関心だ、非協力的だ、等々の意見をよく耳にしました。組合員の無関心さは、政治への不信感や私一人位に行かなくても、また日々の生活に追われて

政治への不信感や私一人位に行かなくても、また日々の生活に追われて

ただでしょうか？私は組合側(執行部)にも大きな要因があるような気がしますが、労働者の地位向上や労働環境の改善、生活向上に向けた活動は勿論重要ですが、最も身近な組合員と膝を詰めて、ある時はたわいもない話を

現役役員の日線で活動を

シニアの立場で期待と応援

青森岩手シニア事務局長 小野 務

9月に岩手県議会選挙が施行され、JAM組織内の高橋元さんが4度目の当選を果たしました。我々の代表者の当選に皆大歓喜でした。今回は近隣から強力な新人が立候補し厳しい選挙戦でしたが、勝利に結びついたのは近くから対立候補が立ち地

の理由により選挙に参加しない組合員が増えているからでしょう。さらには様々な理由による組合離れの現象もあるでしょう。このような状態は時代の変化だけではなく、このようにして組合員の資質や自覚

するなど、果たして組合員目線になっているのだろうか？私も単組、連合、労協の役員を35年程経験させて頂きましたが、どうしても経営側との対峙や上部団体、友好団体との関係、事務処理に追われる日々

連合岩手役員を受け入れる際に、ある人「何のためにやるの？何をやりたいの？何であんなの？」、更にその様なビジョンや覚悟がなければ辞退したらと言われました。果たしてその様なビジョンや覚悟を持って活動ができたかは大いに反省する

意見交換では今年度シニア活動方針↓裏面

表面より続く↓のテーマである①北海道シニア結成への動き②組織対策委員会の設置③年金勉強会の立ち上げに
関する生涯組合員構想と年金問題に発言が集中した。組織対策委員

新潟

第18回定期総会で方針確認

翌日はゴルフ交流会を開催

大場 正啓 通信員



挨拶する磯田会長

JAM新潟シニアクラブは9月30日(月)、新潟駅前の「ラマダホテル」で第18回定期総会を開催した。代議員・役員・来賓等、総勢46人が出席した。



冒頭、磯田会長からは参議院選挙結果についてふれ「選挙は勝たなければ意味がない。支持率が1%未満の政党からの出馬はどうなのか」。また、組織拡大については「新潟は着実に拡大し前進している」との挨拶があった。来賓のJAM新潟

武本執行委員長と、JAMシニアクラブ豊泉副会長からもそれぞれの組織の立場からの挨拶があった。

活動報告では組織の拡大、シニアクラブの加入者増、参議院選挙の結果(新潟選挙区では推薦候補が当選)等が報告され、予算案で1件の質問があったが、すべての報告、議案は満場一致で承認された。今回は役員改選の年度であったが、全役員が再任が承認された。

大阪

第19回総会に会員43名出席

地協OB会の組織化方針等を確認

事務局長 狩谷 道生

大阪シニアクラブ第19回総会には役員を含む43名の会員が参加した。さらに、大山JAMシニアクラブ会長をはじめ6名の来賓にも出席いただいた。総会冒頭、田井中JAM大阪シニアクラブ前事務局長をはじめ、2019年度に鬼籍に入られた諸先輩方に対して黙祷が捧げられた。

総会では、2019年度活動報告、決算報告、2020年度活動計画、予算、2020・21年度役員体制が議

楽しんだ。

翌日は野外交流会が開催され、日本海を眺

望する石地シーサイドカントリークラブで、11名が参加し、台風18

号の影響が気温は高めだが快晴の中、プレーを楽しんだ。

群馬

第17回定期総会を開催

身近な家電品の使い方を学ぶ

鈴木 英一 通信員

群馬シニアクラブの第17回定期総会が、10月2日、前橋市「ホテルラシーネ新前橋」で開催された。

総会では、菊池次郎会長が、「会員数の拡大、年金・医療・介護保険の改悪反対の取り組み、政策制度活動・社会運動の取り組みを中心に活動を展開して

いきたい」と主催者挨拶を行った。

来賓挨拶では、群馬県連絡会の山村康郎会長から「田中ひさやの取り組みは、厳しく総括し、組織強化に向けてしっかりと取り組んで行く」と挨拶。続いて、JAM本部シニアクラブ・那珂通敏副会長からは、「会員にとって



魅力あるシニアクラブ、交流の場を通じて、楽しみのチャンネルを一つ増やす活動をつくっていく。現役の皆さんにも魅力ある活動だと思ってもらえることが大事」と述べた。

議事では、2019年度活動報告、会計報告、会計監査報告をそれぞれ承認するとともに、2020年度活動計画・予算、2020年度〜2021年度役員を承認した。

総会終了後、「身近な製品の事故に注意しましょう!」をテーマに、群馬県生活文化スポーツ部・消費生活課の柴田雪乃主幹が講演

を行った。

柴田主幹は「家電製品は、どんなに大切に使用していても、長年使い続けることで経年劣化し、製品に不具合が生じたり、前触れもなく故障したりすることがあります」「モノを大切にすることが大切です、古すぎる製品は買い替えも検討してください」と身近な家電製品の使用に注意を呼びかけていた。



論され、決定された。その中で、第25回参議院議員選挙結果に対して次に繋がる厳しい総括が必要であること、安倍政権が推し進めている負担の増加と給付の削減により改悪されてきた年金・医療等の社会保障制度を抜本的に拡充すること、憲法の立憲主義・平和主義を擁護する活動をはじめ平和と人権を守る活動を強化し、「核兵器廃絶1000万署名運動」に取り組むこと、JAM大阪シニアクラブ会員の拡大を図ること、そのために地協OB会の組織化を追求すること等が確認された。また、総会では4名の退任役員に対する功労表彰も行われた。

総会終了後、参加者全員で懇親会を開催し、和やかな雰囲気の下で親睦を深めた。